

改訂版刊行にあたり

時の過ぎるのは本当に早いもので、初版刊行以来6年が経過しました。もともとマッチングによる新臨床研修制度に伴い、すべての科をローテートする研修医に役立つ輸液の本を作りたいというコンセプトの下に、臨床真っ只中の若手医師たちにより執筆された本書であります。目を見張るような医学の進歩に伴い、一部は遅れた内容となっていました。特にこの6年間には、従来の経験的な医療から脱却し、エビデンスを重視した医療へのシフトとそれを軸とした世界的ガイドラインの提示といった大きな変革がありました。今回の改訂は特にそれらのガイドラインを取り入れ、新鮮な内容となることを心掛けました。虚血性脳卒中に対する血栓溶解療法は、適応を誤りさえしなければ劇的な治療効果が得られます。敗血症の治療は、次々と新しい知見が取り入れられ、常に進化している段階です。これらの事実はもはや専門医だけが知っているべきことでなく、医師たるものすべて最低限の知識をもつことが求められる時代になっています。

もともと研修医や学生の教育に力を入れていた私であります。現職の大学附属病院へ異動してよりいっそう情熱が高まりました。特に研修医の「学び取ろう」という貪欲な姿勢は、我々に大きな影響を与えてくれています。この改訂は皆さんのその気持ちを十分に満足させるものと信じています。

新臨床研修制度についてはいろいろと問題点が指摘されてはいますが、若い医師にとって柔軟な考え方を育てるのに最適な時期です。本書では様々な分野の輸液をできるだけ簡単に解説していますが、興味をもった分野ではぜひ成書をめくり知識を深めることを心掛けてください。わずか6年ではあります。初版の執筆者も大学病院で教育に携わるもの、海外へ留学したもの、はたまた開業したものと、その進路も様々です。臨床を離れている執筆者の担当した項目は、さらに若手の臨床医が引き継いでくれました。この本を手にとってくれている皆さんが次の世代に引き継ぐ指導者となるのかもしれませんが。

医師は神様ではありません。我々が患者さんにしてあげられることは限られています。輸液は適切に行わなければ有害となることさえあります。わずかでも本書が皆さんの知識の糧となり、受け持ち患者さんのためになれば、本当にうれしいのです。

2009年9月

順天堂大学医学部附属練馬病院救急・集中治療科
杉田 学